

備前市事務事業評価表

事務事業名	老人保護措置事業			コード	02-01-04-07
				担当課・係	福祉事務所 高齢者福祉係
				担当者	藤森仁美
				電話	64-1827
事業実施期間					
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	健康でやさしさあふれるまちづくり			
	中項目(基本施策)	やさしさあふれるまちづくり			
	小項目(施策)	高齢者福祉			

事業について		
目的 (何のために)	家庭で養護を受けることが困難な方を養護老人ホームへ入所させることにより、高齢者の生活の安定（家庭環境の調整、身体的・精神的健康の保持・向上）を図る	
対象 (誰・何を対象に)	65歳以上の高齢者で、環境上の理由及び経済的理由によって家庭で養護を受けることが困難な市民	
内容	対象者を養護老人ホームへ入所措置する。	

事業の結果			
実施項目	17年度	18年度	
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
月平均入所者数	46 人	46 人	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源				
	直接事業費	102,229	国庫補助金等		直接事業費	96,693	国庫補助金等				
	人件費	1,960	委託費負担	22,821	人件費	3,140	委託費負担	20,860			
		市債				市債					
合計	104,189	一般財源等	81,368	合計	99,833	一般財源等	78,973	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.25	人	0.35	人	
結果指標名	月平均入所者数		月平均入所者数		
結果指標量	46		46		
単位	人		人		
対前年比	-		100.00%		0.00%
活動にかかるコスト	104,189,000	円	99,833,000	円	
単位当たりコスト	2,264,978	円	2,170,283	円	
結果指標名					
結果指標量					
単位					
対前年比	-				
活動にかかるコスト	円		円		
単位当たりコスト	円		円		

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	家庭で養護を受けることが困難な方を養護老人ホームへ入所させることにより、高齢者がその状態に応じた安全で自立した生活を送れるようにする。		
成果指標名	月平均待機者数	式又は説明	
	17年度	18年度	
成果指標量	3	3	
対前年比	-	100.00%	0.00%
到達目標値	1	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 老人福祉法	妥当性評価<A~E> A
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	老人福祉法に基づく事業であり、高齢社会にあつては、事業の重要性は増している。対象者は増加しており、市民ニーズもある。
	市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input checked="" type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	
手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	課題認識	
有効性の評価	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> C
市民参画度	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	家庭で養護を受けることが困難な高齢者の受け皿として養護老人ホームの果たす役割は大きい、常時、待機者のある状態が続いている。

平成19年度の状況		説明 老人福祉法に基づく事業であり、高齢者とその家族が安心して生活をしていくために、当事業は有効で、前年度と同様に実施していく。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	
目標値	結果指標量 46	結果指標量
	成果指標量 1	

総合評価	評価区分 <A~E> B
核家族化・高齢化が進む中、養護老人ホームの重要は年々増加しており、事務事業も増加が予想される。	

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	---	---	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	措置の精査を行う	毎年度	待機者が減少し在宅生活が困難な方が、早く入所できるようにする